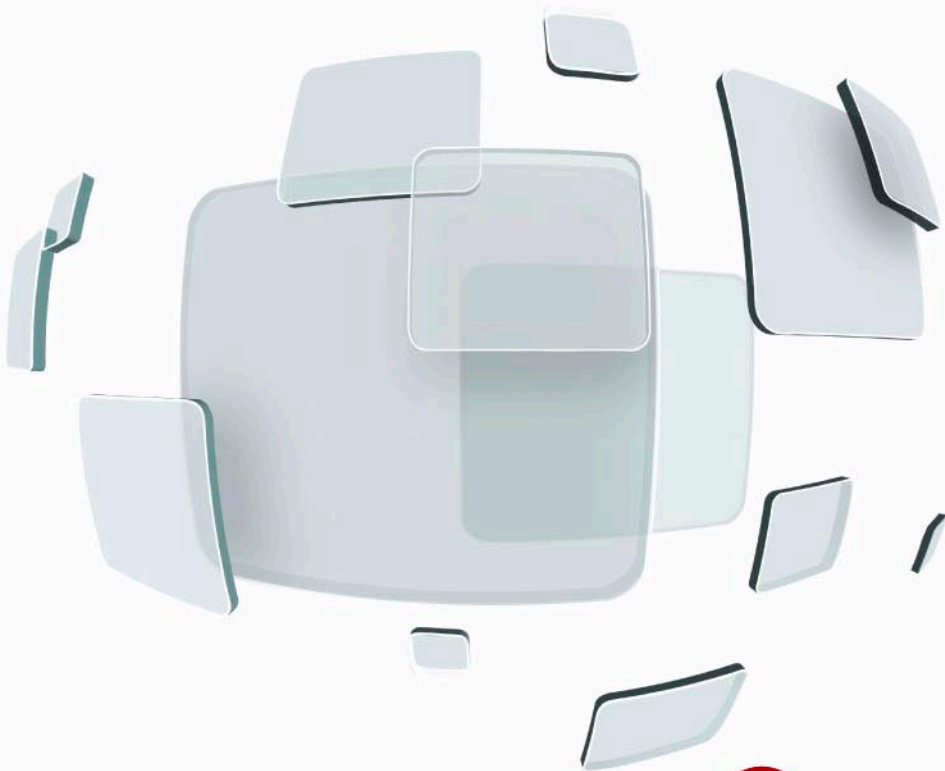


Nuendo 4.3 の新機能



# NUENDO<sub>4</sub>

Advanced Audio and Post Production System



Cristina Bachmann, Heiko Bischoff, Marion Bröer, Sabine Pfeifer, Heike Schilling

本書の記載事項は Steinberg Media Technologies GmbH 社によって予告なしに変更されることがあり、同社は記載内容に対する責任を負いません。本書で取り扱われているソフトウェアはライセンス契約に基づいて供与されるもので、ソフトウェアの複製はライセンス契約の範囲内でのみ許可されます（バックアップ コピー）。Steinberg Media Technologies GmbH 社から前もって書面による承諾が得られていないかぎり、目的や形式の如何にかかわらず、本書のいかなる部分も複写、複製、または、その他の方法で伝達、記録することは禁じられています。

本書に記載されている製品名および会社名は、すべて各社の商標および登録商標です。

Windows XP は Microsoft Corporation の商標です。Windows Vista はアメリカ合衆国およびその他の国における Microsoft Corporation の商標または登録商標です。Mac ロゴはライセンスに基づいて使用される商標です。Macintosh および Power Macintosh は Apple Inc. の登録商標です。

リリース年月日：2009 年 7 月 30 日

© Steinberg Media Technologies GmbH, 2009.

All rights reserved.

## 目 次

5	はじめに
6	Nuendoの世界へようこそ
7	新しい機能を使う
8	VST Sound
8	ASIOデバイス用プラグ アンド プレイ機能
8	自動生成されたVSTコネクション プリセット
9	向上したモニタリング機能
9	Mac OS X/バージョンの改良点
9	リモート デバイス
10	メディアベイ関連のキーボード ショートカット
10	OMF ファイルの読み込み
10	VST インストゥルメントを使ったメトロノーム クリック
11	自動スクロールの一時停止
11	ステレオ ファイルの書き出しオプション
11	Nuendo 4.3とSyncStation
12	「プロジェクト同期設定 (Project Synchroni-zation Setup)」ダイアログの変更点と追加点
13	Cubase 5のプロジェクトをNuendo 4.3で開く
14	索 引

はじめに

## Nuendo の世界へようこそ

このバージョンには、SyncStation への対応をはじめとして、すべての Nuendo ユーザーに役立つ新機能が追加されています。

この文書では、バージョン 4.1 以降に追加または変更された機能を順にご紹介します。

## 対応プラットフォーム（OS）による違いについて

本書では、Windows 版と MacOS 版の Nuendo の使用方法をご紹介します。

機能や設定項目によっては、Windows か Mac OS、どちらか一方のプラットフォーム（オペレーティングシステム）でだけ利用できるものもあります。その場合は、それが明記されています。

⇒ **特にただし書きがない場合、記載された説明や手順は Windows と Mac OS の両バージョンに当てはまります。**

## キーボードショートカットの表記について

Nuendo のキーボードショートカットの多くは「修飾キー」と呼ばれる命令用のキー（modifier key）と共に使用されます。このキーはオペレーティングシステムによって異なります。例えば、取り消し操作の既定（デフォルト）キーボードショートカットは Windows の場合、[Ctrl] + [Z] ですが、Mac OS では [command] + [Z] です ([command] はアップルマークのついたキー)。

本書では、修飾キーを伴うキーボードショートカットを記述する場合、まず、Windows の修飾キーを挙げ、次のように記載します。

[Windows 修飾キー]/[Mac OS 修飾キー]+[キー]

例えば、[Ctrl]/[command]+[Z] と表記されている場合、Windows では、[Ctrl] キー、Mac OS では [command] キーを押した状態で [Z] キーを押すことを意味します。

同様に、[Alt]/[option] + [X] と記載されている場合、Windows では [Alt] キー、Mac OS では [option] キーを押したままで、[X] キーを押すことを指しています。また、上記の [Z]、[X] など、アルファベットや数字で表記されたキーは半角英数字を意味します。

⇒ **本書では、右クリックを使った操作が出てくることもあります（コンテキストメニューを開くときなど）。Mac でシングルボタンのマウスを使用している場合は、[Ctrl] キーを押した状態で、該当する要素をクリックしてください。**

**新しい機能を使う**


# VST Sound

Steinberg はバージョン 4.2 で SoundFrame の新バージョン、VST Sound を導入しました。このメディア管理システムは、VST3 に直接統合されています。VST Sound では、サードパーティー製のプラグインや VST インストゥルメントを MediaBay にそのまま組み入れることができます。これにより、オーディオ、MIDI、ビデオ、オーディオ ループ、VSTi プリセット、トラック プリセットといった、これまでの SoundFrame が対応していた形式とタイプも含めて、すべての関連ファイルをまとめて管理できます。従来の Steinberg アプリケーションの一部だった SoundFrame は、VST Sound に置き換わりました。

# ASIO デバイス用プラグアンド プレイ機能

Steinberg MR816 シリーズ製品は Nuendo のプラグ アンド プレイ機能に対応しています。これらのデバイスはアプリケーションの起動中に接続したり電源を入れたりすることができます。Nuendo は自動的に MR816 シリーズのドライバーを使用し、VST コネクションの割り当て設定を更新します。

- Steinberg は、他のハードウェアデバイスでも、この機能が適切に使用できるとは保証できませんのでご注意ください。使用しているデバイスが、このプラグアンド プレイ機能に対応しているかどうかは、そのデバイスの説明書を参照してください。

 コンピューターの動作中、プラグアンド プレイ機能に対応していないデバイスをつなげたり、はずしたりすると、デバイスが破損する場合があります。ご注意ください。

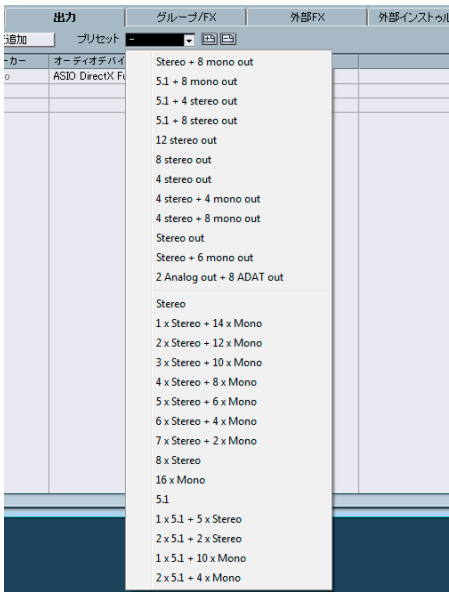
# 自動生成された VST コネクション プリセット

VST コネクション ウィンドウ（「デバイス（Device）」メニュー）には、入力、出力、それぞれのタブにプリセット欄があります。欄をクリックすると、ポップアップ メニューにプリセット項目が表示されます。既定（デフォルト）状態では、標準的なバス構成が多数用意されています。また、独自のバス設定をプリセットとして保存することもできます。

本バージョンの Nuendo では、これまでのバージョンでの標準的なプリセットを補う形で新しいタイプのプリセットが加われました：Nuendo は、起動中、使用しているオーディオ ハードウェアの物理的な入出力ポートを検出し、そのハードウェア構成に合わせたプリセットを自動的に作成します。

これらのハードウェア従属型プリセットでは、以下のバス構成が可能です：

- 1 つのステレオ バス
- ステレオとモノラルバスのさまざまな組み合わせ
- 多数のモノラルバス
- 1 つの 5.1 バス（6 つ以上の入力ポートがある場合）
- 5.1 バスとステレオ バスのさまざまな組み合わせ（6 つ以上の入力ポートがある場合）
- 5.1 バスとモノラル バスのさまざまな組み合わせ（6 つ以上の入力ポートがある場合）



VST コネクション ウィンドウの出力タブにあるプリセット ポップアップメニュー。標準プリセット（上位項目）と自動生成されたプリセット（下位項目）が表示されます。

自動生成されたプリセットがあると、使用デバイスや作業環境が変わるたびに、VST コネクション ウィンドウを開いてバスやポートを手動で設定する必要がなくなり、オーディオ デバイスをすばやく使えるようになります。さまざまなデバイスを使用したり、さまざまなスタジオで作業したりする場合には、この機能が特に役立ちます。

## 向上したモニタリング機能

本バージョンの Nuendo では、ASIO ダイレクト モニタリング機能に関連した改良がいくつか行なわれました。

使用しているオーディオ デバイスによって、モニタリングのレベルやパンニングをミキサー（Control Room セクションを含む）から制御できるようになりました。たとえば、レベルは、ミキサーのボリュームフェーダー、入力ゲイン コントロール、Control Room の Studio センド レベルで調整できます。

Steinberg のデバイス（MR816 シリーズ）で ASIO ダイレクト モニタリング機能を使用すると、モニタリングのレイテンシーは、実質、ゼロになります。

## Mac OS X バージョンの改良点

### チャンネル名の取得機能

使用しているオーディオ デバイスによっては、入出力ポートに設定されている「ASIO チャンネル名」を自動的に検出できるようになりました。操作は以下のとおりです：

1. 「デバイス設定（Device Setup）」ダイアログ（「デバイス（Devices）」メニュー）を開きます。
  2. VST オーディオ システム（VST Audio System）ページの「ASIO ドライバ（ASIO Driver）」欄をクリックし、ポップアップ メニューから、使用しているオーディオ デバイスを選択します。  
ダイアログ内、左側のデバイス リストに、該当するデバイスが表示されます。
  3. 表示されたデバイス項目を選択します。  
ダイアログ内、右側に、デバイスの設定項目が表示されます。
  4. [コントロールパネル（Control Panel）] ボタンをクリックします。  
デバイスのコントロールパネルが表示されます。
  5. 「CoreAudio チャンネル名を使用する（Use CoreAudio Channel Names）」をチェックし、[OK] ボタンをクリックします。「デバイス設定（Device Setup）」ダイアログを閉じます。
  6. VST コネクション（VST Connections）ウィンドウを開くと、入出力タブの「デバイス ポート（Device Port）」コラムには、CoreAudio ドライバー用に設定されている名前が表示されているはずです。
- ⇒ プロジェクト ファイルを旧バージョンの Nuendo で使用する場合は、VST コネクション（VST Connections）ウィンドウで、ポートの接続を設定しなおす必要があります。

## ポートの選択とオン / オフ設定

オーディオ デバイスの設定ページ（上記「デバイス設定（Device Setup）」ダイアログ内）では、使用する入出力ポートをオン / オフ設定できるようになりました。これにより、たとえば、ライン入力のかわりにマイク入力を使うようにしたり、場合によっては、オーディオ デバイスの入力ポートや出力ポート 全体をオフにしたりすることもできます。

⇒ この機能は、内蔵オーディオと標準 USB オーディオ デバイスのほか、PinnacleCineWave など、特定のオーディオ デバイスでのみ使用できます。

## ハードウェアの設定操作

オーディオ デバイスの設定ページにある [Open Config Ap（設定アプリケーションを開く）] ボタンをクリックすると、使用しているオーディオ デバイスのコントロール パネルが開きます（専用のコントロール パネルがある場合）。ここでは、そのデバイスに対してさまざまな設定を行なえます。設定可能な項目の数と内容は、使用しているデバイスによって異なります。詳細については、そのオーディオ デバイスの説明書を参照してください。

## リモート デバイス

使用しているリモート デバイスによっては、「デバイス設定（Device Setup）」ダイアログ内で該当するデバイスの設定ページを開くと、以下に挙げる新しい項目の一部またはすべてが追加されています：

項目	内容
リセット (Reset)	デバイスを製品出荷時の設定状態に戻します。
バンク (Bank)	使用しているリモート デバイスに複数のバンクがある場合、この欄のポップアップ メニューで、使用するバンクを選択できます。 Nuendo を起動すると、ここで選択したバンクが自動的に使用されます。
スマート スイッチ ディレイ (Smart Switch Delay)	ソロ ボタンやミュート ボタンなど、Nuendo に備わっている機能の中には、いわゆる「スマート スイッチ（smart switch）」と呼ばれる動作に対応しているものがあります。これは、ボタンをクリックしてオン / オフ切り替えを行なう通常の操作に加えて、マウス ボタンを押している間だけ、該当する機能をオンにするものです。この場合、マウス ボタンを放すと、機能がオフになります。 この欄のポップアップ メニューでは、マウス ボタンが押されてから、このスマート スイッチ モードがオンになるまでの時間を設定できます。「オフ（Off）」を選択すると、Nuendo でのスマート スイッチ モード全体がオフになります。

## メディアベイ関連のキーボード ショートカット

メディアベイに関連したいいくつかの機能をキーボードショートカットで実行できるようになりました。このキーボードショートカットは、「キーコマンド (Key Commands)」ダイアログ (「ファイル (File)」メニュー) で設定できます。

キーボードショートカットで実行できる動作は以下のとおりです：

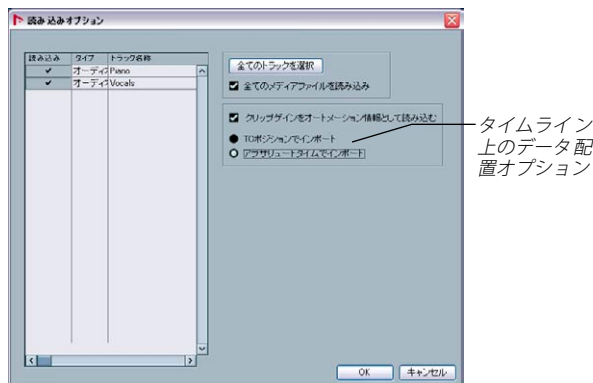
- プリセットブラウザを開く
- プリセット項目をブラウズする

矢印キーを使って、メディアベイ ウィンドウのナビゲート操作を行うこともできます。また、検索条件をリセットしたり、メディアベイをアプリケーション起動時の状態に戻したりすることもできます。

⇒ これにより、メディアベイ機能のいくつかがリモート コントロールできるようにになったことに注意してください。

## OMF ファイルの読み込み

OMF ファイルを読み込む場合、読み込んだデータの配置方法を 2 つのオプションから選択できるようになりました。



OMF ファイルの読み込みオプション (Import Options) ダイアログ

- 「TC ポジションでインポート (Import at Timecode Position)」を選択すると、OMF ファイル内の各要素は、それぞれの記録されているタイムコードポジションに挿入されます。

この機能は、読み込んだすべての要素を、OMF ファイルに記録されたおりの正確なタイムコード ポジションに配置したい場合に役立ちます。Nuendo と OMF ファイルとでフレーム レートが異なる場合でも、各要素が正しいタイム ポジションにセットされます。映像に関連した素材を扱う場合には、通常、このオプションを選択する必要があります。

- 「アブサリユートタイムでインポート (Import at Absolute Time)」を選択すると、OMF ファイルに記録されている要素は、ファイルに記録された最初のタイムコード ポジションを基準にして、そこから相対的な距離を保った状態で配置されます。

Nuendo と OMF ファイルのフレーム レートが異なっても、OMF ファイル内でのタイムコード ポジションに関係なく、各要素が、相対的な位置関係を保持したままタイムライン上に読み込まれます。オブジェクト間のタイミングが最優先される音楽素材では、通常、このオプションを選択します。

## VST インストゥルメントを使ったメトロノーム クリック

メトロノームの MIDI クリックを設定する場合、VST インストゥルメントを音源に設定できます。操作は以下のとおりです。

1. 「VST インストゥルメント (VST Instruments)」ウィンドウを開いて、希望するインストゥルメントをロードします。
2. 「トランスポート (Transport)」メニューから「メトロノーム設定 ... (Metronome Setup...)」を選択します。

「メトロノーム設定 (Metronome Setup)」ダイアログが開かれます。

3. 「MIDI クリック (MIDI Click)」セクションにある「MIDI ポート / チャネル」欄をクリックし、ポップアップメニューから VST インストゥルメントを選択します。

「MIDI クリック - オン (Activate MIDI Click)」がオンになっていることを確認してください。

VST インストゥルメントのサウンドが適切に設定されていれば、再生をスタートすると、選択したインストゥルメントの音でメトロノームのクリックが聞こえるはずですが。

## 自動スクロールの一時停止

プロジェクト ウィンドウのメイン ツールバーや各種のエディターには、自動スクロール（オートスクロール）ボタンがあります。このボタンをオンにすると、再生中、プロジェクト カーソルが常に表示されているように画面が自動的にスクロールします。

しかし、再生しながらパートやイベントを編集すると、編集している部分が見えなくなってしまうことがあります。

この場合、「編集中は自動スクロール機能を保留（Suspend Autoscroll when Editing）」ボタンをオンにすると、編集中の画面がスクロールしなくなります。このボタンはツールバー上にある「オートスクロール（Autoscroll）」ボタンの右側にあります。



「編集中は自動スクロール機能を保留（Suspend Autoscroll when Editing）」ボタン

この機能がオンになっている場合、再生中にイベント ディスプレイ内をクリックすると、自動スクロール機能が一時停止されます。

操作手順は以下のとおりです：

1. **（プロジェクトが開かれていない場合）オーディオ パートか MIDI パートのあるプロジェクトを開きます。**
2. 「オートスクロール（Autoscroll）」ボタンと「編集中は自動スクロール機能を保留（Suspend Autoscroll when Editing）」ボタンをオンにします。両方のボタンが青く表示されます。
3. **再生をスタートします。**
4. **たとえば、パートやイベントを移動させるなど、編集操作をします。**

「オートスクロール（Autoscroll）」ボタンがオレンジ色に変わります。

自動スクロール機能が一時的に停止されます。このため、プロジェクト カーソルがウィンドウの右端に達しても、画面はスクロールしません。

再生を停止するか、「オートスクロール（Autoscroll）」ボタンをもう一度クリックして青く表示された状態にすると、Nuendo は通常の自動スクロール モードに戻ります。

## ステレオ ファイルの書き出しオプション

「オーディオ ミックスダウン書き出し（Export Audio Mixdown）」ダイアログでは、多重チャンネルの出力パスをはじめとして、いくつかの形式でミックスダウンが行なえます。書き出されるファイルのチャンネル内容を定めるオプションの 1 つが「Stereo Export（ステレオ書き出し）」です。

この項目がオンになっている場合、Nuendo は、多重チャンネルソースから左右のチャンネルだけを抽出します。抽出されたチャンネルは、単一ステレオ ファイルの左右のチャンネルとして保存されます。

## Nuendo 4.3 と SyncStation

Nuendo 4.3 は、先進的なテクノロジーをサポートします。このアップデート バージョンでは、Nuendo と併せて使うことでかつてない精度と能力を発揮する待望のシンクロナイザー、SyncStation に対して技術的にフル対応しました。この卓越したデバイスは、AV スタジオやプロダクション施設などで要求される、サンプル単位の精密な同期とマシンコントロールを実現します。

SyncStation の同期オプションは、システムに SyncStation が接続されていない場合でも、Nuendo に表示されます。操作は以下のとおりです：Nuendo で、「プロジェクト同期設定（Project Synchronization Setup）」ダイアログを開きます。「TC ソース（Timecode Source）」セクションにある「Steinberg SyncStation」をオンにします。「Steinberg SyncStation」セクションが表示され、SyncStation のパラメーターが表示されます。

また、「デバイス設定（Device Setup）」ダイアログ（「デバイス（Devices）」メニュー）の「トランスポート（Transport）」 - 「SyncStation」ページにも、他のオプションが表示されます。詳細については、SyncStation の説明書を参照してください。

⇒ **SyncStation がコンピューターに接続されていない場合、「プロジェクト同期設定（Project Synchronization Setup）」ダイアログの「Steinberg SyncStation」セクションには、「No USB MIDI port!（USB MIDI ポートなし）」というメッセージが表示されます。SyncStation に関連したメッセージとオプションは英語だけで表示されます。ご了承ください。**

## 「プロジェクト同期設定 (Project Synchronization Setup)」ダイアログの変更点と追加点

### 項目名の変更

同期設定における構成要素の関係をわかりやすくするため、「プロジェクト同期設定 (Project Synchronization Setup)」ダイアログでは、いくつかのセクションで項目名が変わりました。

ダイアログ内にあるセクションの多くは漫画の「吹き出し」のような形をしています。このデザインは各セクションの関連を表しています。

いちばん大きいのが“Nuendo”セクションです。これはシステム構成全体の中における Nuendo の位置を視覚的に示すもので、設定項目はありません。

“Machine Control Output Destination (マシンコントロール出力先)”、“Machine Control Input Source (マシン コントロール入力元)” 両セクションでの設定によって、マシン コントロールの「マスター」か「スレーブ」かが決まります。

- **Nuendo をマシン コントロールのマスターにする場合は、“Machine Control Output Destination (マシン コントロール出力先)” セクションにあるオプションのうち、希望する項目を選択します。**  
“Nuendo” セクションから「吹き出し」が出ている部分は、マシン コントロールの命令が Nuendo からスレーブ デバイスに送信されることを示しています。
- **Nuendo をマシン コントロールのスレーブにする場合は、“Machine Control Input Source (マシンコントロール入力元)” セクションにあるオプションのうち、希望する項目を選択します。**  
“Nuendo” セクションに向かって「吹き出し」が出ている部分は、マシン コントロールの命令がマスター デバイスから Nuendo に送信されることを示しています。
- “Machine Control Output Settings (マシン コントロール出力設定)”、“Machine Control Input Settings (マシン コントロール入力設定)” の各セクションでは、マシン コントロールの信号を送受信するポートなどの詳細を設定できます。

### タイムコード設定セクションの新しい項目

「プロジェクト同期設定 (Project Synchronization Setup)」ダイアログの「TC 初期設定 (Timecode Preferences)」セクションには、新しいオプションが 2 つ加わりました：

#### Jam-Sync

この項目がオンになっている場合、外部からのタイムコード信号が途切れても、Nuendo は、そのまま再生 / 録音を続けます。


また、この項目がオンになっている場合、「ドロップアウト フレーム (Drop Out Frames)」欄は使用できません。同時に、それまで設定されていたドロップアウト フレームの上限値も無効になります。

#### Auto-Detect Frame-Rate Changes (フレームレート変更の自動検知)

タイムコード データには、送信デバイス側に設定されているフレーム レートの情報が常に含まれています。この値は 24 fps、25 fps、30 fps または 30 dfps のいずれかになります。

“Auto-Detect Frame-Rate Changes (フレームレート変更の自動検知)” では、「プロジェクト設定 (Project Setup)」ダイアログで設定されているフレームレートとは異なるタイムコード データを Nuendo が受信した場合の動作を設定します：

- この項目がオンになっている場合、受信したタイムコードとプロジェクトのフレームレートが合わないと、Nuendo は再生 / 録音を停止して、フレームレートが変わったことを示すメッセージを表示します。  
そのダイアログで [OK] ボタンをクリックすると、「プロジェクト設定 (Project Setup)」ダイアログで設定されているフレームレートを変更します。
- この項目がオフになっている場合、受信したタイムコードとプロジェクトのフレームレートが合わなくても、Nuendo は、そのまま再生 / 録音を続けます。  
Nuendo では、フレームレートのミスマッチが検出されると、それがトランスポートパネルの“SYNC”セクションに表示されます。

 “Auto-Detect Frame-Rate Changes (フレームレート変更の自動検知)” をオフにすると、フレームレートが合わなくても、Nuendo は再生 / 録音を停止しません。しかし、フレームレートが合っていないと、外部デバイスでプロジェクト内の位置を特定できなくなることに注意してください。

## “Nuendo” セクションのトランスポート コントロール

「プロジェクト同期設定 (Project Synchronization Setup)」ダイアログが開かれていると、キーボード ショートカットをはじめとして、Nuendo のコントロール要素を使用できません。

このため、トランスポート コントロールのいくつかは、“Nuendo” セクション下部に備わっています。これを利用すると、ダイアログを開いたままで同期の設定状態をテストできます。

使用できるコントロールは、“SYNC (同期)”、サイクル、停止、再生、そして、タイム ディスプレイ 1 です (それぞれの詳細についてはオペレーション マニュアルを参照)。

## 「プロジェクト設定 (Project Setup)」セクション

「プロジェクト同期設定 (Project Synchronization Setup)」ダイアログの左下隅には、「プロジェクト設定 (Project Setup)」ダイアログにまとめられている項目を示す、2 つのセクションがあります (「プロジェクト設定 (Project Setup)」ダイアログについてはオペレーション マニュアルの「プロジェクトウィンドウ (The Project window)」の章を参照)。

⇒ このプロジェクト設定オプションは、Nuendo でプロジェクトが開かれている場合にのみ表示されます。

これらのオプションは、「プロジェクト設定 (Project Setup)」ダイアログの内容とほぼ同じですが、2 つのセクションに分けられています。

- 「プロジェクト設定 - 時間 (Project Setup - Time)」セクションには、プロジェクトのタイムラインに関連したパラメーターがまとめられています。
- それに対して、「プロジェクト設定 - ディスプレイ (Project Setup - Display)」には、プロジェクト データの表示に影響するパラメーターが集められています。
- 「プロジェクト設定 - 時間 (Project Setup - Time)」セクションにある「ビデオ プル (Video Pull)」は、「プロジェクト設定 (Project Setup)」ダイアログ内にはありません。  
この「ビデオ プル (Video Pull)」は、「デバイスの設定 (Device Setup)」ダイアログから、このセクションに移されました。これで、同期に関する設定を 1 つのダイアログで行なえます。
- 「プロジェクト設定 (Project Setup)」セクションのパラメーターを変更すると、「プロジェクト設定 - 時間 (Project Setup - Time)」セクションのタイトル部分が [適用 (Apply)] ボタンに変わります。変更内容を適用するには、このボタンをクリックしてください。[適用 (Apply)] ボタンをクリックしないで、そのまま [OK] または [キャンセル (Cancel)] ボタンをクリックしてダイアログを閉じると、変更内容は消失します。

⇒ 「プロジェクト同期設定 (Project Synchronization Setup)」ダイアログの他の設定内容は、アプリケーション全体に適用されますが、「プロジェクト設定 (Project Setup)」セクションの設定値は、アクティブなプロジェクトに対してのみ適用 / 保存されます。


## 停止モードでの MIDI クロック送信

「プロジェクト同期設定 (Project Synchronization Setup)」ダイアログの右下隅には、「停止モードで MIDI クロックを送信 (Send MIDI Clock in Stop Mode)」というオプションがあります。

- この項目がオンになっている場合、Nuendo は、停止モードでも、選択された MIDI クロック出力先に MIDI クロック信号を送信します。  
これは、たとえば、アルペジエーターを内蔵した MIDI キーボードを使用していて、そのテンポを MIDI クロック メッセージで制御している場合などに便利です。その場合、Nuendo が停止モードになっても、アルペジエーターは正しいテンポを保持できます。また、外部ドラムマシンでも、この機能が役立つことがあります。前述のアルペジエーターと同様、Nuendo が停止しても、現在のシーケンサーテンポでドラムパターンの再生を続けられます。
  - この項目がオフになっている場合、Nuendo は、選択された MIDI クロック出力先に対して、再生が行なわれている間だけ MIDI クロック信号を送信します。  
その場合、前述した停止モードでのアルペジエーター制御は行なえません。
- ⇒ MIDI クロック メッセージでは、常に、現在のプロジェクト カーソルポジションでのテンポが基準になることに注意してください。

## Cubase 5 のプロジェクトを Nuendo 4.3 で開く

Cubase 5 で作成されたプロジェクト ファイルは、Nuendo 4.3 で開いたり、編集したり、保存したりすることができます。

 Cubase 5 にあって Nuendo 4.3 にはない機能のデータを Nuendo 4.3 で再生したり表示させたりすることはできません。Nuendo 4.3 で Cubase 5 プロジェクトを保存すると、そうした Cubase 5 専用のデータはプロジェクトから削除されます。このため、そのプロジェクトを再び Cubase 5 で開いても、削除されたデータは復元できません。

## 索 引

## A

Alt/option キー 6

ASIO ダイレクト モニタリング 9

Auto-Detect Frame-Rate Changes 12

## C

Ctrl/command キー 6

## E

Export

Audio Mixdown 11

## M

Mac OS X

オーディオ ハードウェアの設定 9

チャンネル名の取得 9

ポートのオン/オフ切り替え 9

ポートの選択 9

MediaBay

キーボード ショートカット 10

Modifier key 6

## O

OMF

読み込み 10

## P

Project Synchronization Setup Dialog 13

## S

Send MIDI Clockin Stop Mode 13

Smart Switch Delay 9

SyncStation 11

## V

VST Sound

概要 8

VST コネクション プリセット 8

## お

オートスクロール 11

## か

書き出し

ステレオ ファイル 11

## き

キーボード ショートカット

表記 6

## し

自動スクロール 11

修飾キー 6

## す

ステレオ ファイル書き出し 11

オーディオ ミックスダウン書き出し 11

スマート スイッチ ディレイ 9

## と

同期

Jam-Sync 12

項目名の変更 12

停止モードでの MIDI クロック送信 13

フレームレート変更の自動検知 12

トランスポート

プロジェクト同期設定ダイアログ 13

## ふ

プラグアンドプレイ

ASIO デバイス 8

プロジェクト設定セクション（同期） 13

## め

メディアベイ

キーボード ショートカット 10

メトロノーム 10

## も

モニタリング 9

## り

リモート デバイス

スマート スイッチ ディレイ 9

バンクの選択 9

リセット 9